

Historia 歴史探訪

ヒストリア



いざ、 憧れの お伊勢参りに 御座候ふ

庶民の憧れ 一生に一度の旅

戦乱の世が終わり、社会が安定し始めた江戸時代。誰もが「一生に一度は」と憧れたのが「旅」でした。中でも、庶民の憧れの的であったのが、三重県にある伊勢神宮を参拝する「お伊勢参り」でした。

弥次喜多コンビが江戸から東海道を巡って伊勢神宮を参拝する、十返舎一九の大ヒット作「東海道中膝栗毛」の影響もあり、文政13年（一八三〇）には、当時の国民の6分の1にあたる450万人以上がお伊勢参りに訪れたと言われています。



寛延2年(1749)から120年にわたり記録された川之江村役用記。76冊が現存する

江戸時代のパスポート 往來手形ってナンだ?!

江戸時代の宇摩郡は、51の村に分かれていました。その一つである川之江村の大庄屋が残した公用記録「役用記」には、江戸時代中期以降、文化11年（一八一四）から安政7年（一八六〇）までの47年間に、100人がお伊勢参りの旅に出たことが記録されています。

当時、日本国内であっても自由に行き来することはできず、関所などを通るためには「往來手形」と呼ばれるパスポートが必要でした。厳しい移動制限が掛けられていた庶民に、比較的に容易に許可が下りた旅の目的が「信仰」でした。庶民はそれを名目に、各地に旅に出たのです。

往來手形には、旅行者の氏名や居住地、旅の目的のほか、宗派や死亡したときの処置方法などが記述されていました。



川之江村役用記に残された往來手形控え

古町下勘蔵組の弁次という男1名が、かねてからの願いにより、お伊勢参りに行きます。行く先々での法令は必ず守るようきつく言い聞かせています。怪しい者ではありませんから、舟渡場や御番所をお通しください。途中で日が暮れて、宿泊など希望しましたら、よろしくお取り計らいください。この往來手形は間違いのないものです。

いざ、 憧れの お伊勢参りへ

歴史考古博物館・高原ミュージアムで開催中の企画展「四国の真ん中で往來す」では、宇摩郡津根村（現・土居町津根）の近藤貞兵衛さんがお伊勢参りをした記録「伊勢御参宮道中日記帳」が展示されています。



立ち寄りや行程が記された伊勢御参宮道中日記帳

弘化2年（一八四五）2月9日に津根村を出発した貞兵衛さんは、中之庄町の宿で一夜を過ごし、翌10日には金刀比羅宮を参拝しています。その後は丸亀港から船で室津（兵庫県）に渡り、住吉大社（大阪府）や高野山（和歌山県）、春日大社（奈良県）などに立ち寄りながら、2月23日、ついに憧れの伊勢神宮にたどり着きました。

船旅を除いた総移動距離は、約500キロメートル。徒歩が移動の基本手段であった時代に、20日足らずでこの距離を移動した貞兵衛さんの健脚ぶりに驚かされます。

今も昔も、人々は楽しみや癒やしを求めて旅に出ます。自由に旅に出ることができなかった江戸時代、旅は今よりも特別なものでした。現在開催中の企画展で、その特別な旅に触れてみませんか。



貞兵衛さんのお伊勢参りルート

企画展 **四国の真ん中で往來す**
- 宇摩の人々の旅のかたち -
四国中央市 歴史考古博物館
- 高原ミュージアム -

¥0
FREE

前期 開催中 ~ 3/30 (日)
芸術の旅、信仰の旅、学問の旅
後期 4/8 (火) ~ 6/ 8 (日)
商用の旅、訴訟の旅、戦の旅
ギャラリートーク 3/30 (日)
定員 20人
受付開始 3/11 (火)

問 歴史考古博物館
- 高原ミュージアム -
川之江町 2217-83
☎ 28-6260